

令和4年千葉市教育委員会会議
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

令和4年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 令和4年12月21日(水)
午後2時00分開会
午後2時24分閉会
場所 第一・第二会議室

出席委員 教 育 長 磯野 和美
委 員 小西 朱見
委 員 藤川 大祐
委 員 竹田 賢
委 員 高津 乙郎
委 員 大山 尋美

出席職員

教 育 次 長	宮本 寿正	学 事 課 長	栗和田 耕
教 育 総 務 部 長	香取 徹哉	教 育 指 導 課 長	樋口 雅也
学 校 教 育 部 長	鶴岡 克彦	教 育 支 援 課 長	小田 將史
生 涯 学 習 部 長	佐々木敏春	保 健 体 育 課 長	酒井 隆夫
学校教育部参事(教育改革推進課長事務取扱)	伊藤 淳	教 育 セ ン タ ー 所 長	川名 正雄
中央図書館長(管理課長事務取扱)	中島 千恵	養護教育センター所長	久保木 修
総 務 課 長	山田 利雄	生 涯 学 習 振 興 課 長	内海 豊
企 画 課 長	望月 宏次	文 化 財 課 長	佐久間仁央
教 育 職 員 課 長	吉田 悦子	総 務 課 課 長 補 佐	志賀 二郎
教 育 給 与 課 長	松永 信隆	総 務 課 総 務 班 主 査	猪飼 恭平
学 校 施 設 課 長	堀 明德		

書 記 総 務 課 主 任 主 事 中 台 陽 一 郎

- 1 開会
磯野教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名委員の氏名
磯野教育長より小西委員を指名
- 4 会期の決定
令和4年12月21日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 会議録の承認
令和4年第9回定例会会議録及び令和4年第10回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 6 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 7 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 令和4年第4回千葉県議会定例会について
山田総務課長より報告があった。
報告事項(2) 令和4年度研究指定校研究報告会について
樋口教育指導課長より報告があった。
 - (2) 臨時代理報告
報告第7号 令和4年度補正予算について（12月補正（追加分））
小田教育支援課長より報告があった。
 - (3) 発言の要旨
報告事項(1) 令和4年第4回千葉県議会定例会について
磯野教育長 報告事項（1）「令和4年第4回千葉県議会定例会について」、総務課長、説明をお願いします。
山田総務課長 議案書の1ページをお願いいたします。
報告事項（1）「令和4年第4回千葉県議会定例会について」
報告します。
まず、「1 会期」です。
本定例会は、11月29日から12月16日までの会期で、
議案質疑、教育未来委員会、代表質問、一般質問などが行われました。
次に、「2 提出議案の審議状況」ですが、（1）から（3）

につきましては、教育未来委員会の審査を経て、12月16日の本会議において可決されました。(4)につきましては、後ほど所管より臨時代理報告ということで、改めて報告させていただきますが、12月16日に追加議案として上程され、同日の本会議において可決しました。

次に、「3 議案質疑・代表質問・一般質問」です。

まず「(1) 議案質疑」ですが、3人から通告があり、うち2人から教育委員会に関する質疑が行われました。

「(2) 代表質問」につきましては、5つの会派から通告があり、全ての会派から教育委員会に関する質問が行われました。主な質問の内容は、記載のとおりです。

「(3) 一般質問」ですが、27人から通告があり、うち14人から教育委員会に関する質問が行われました。主な質問の内容は、記載のとおりです。

以上でございます。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。よろしいでしょうか。

報告事項(2) 令和4年度研究指定校研究報告会について

磯野教育長 報告事項(2)「令和4年度研究指定校研究報告会について」、教育指導課長、説明をお願いします。

樋口教育指導課長 報告事項(2)「令和4年度研究指定校研究報告会について」報告します。

議案書3ページをご覧ください。

教育委員会では、毎年本市の教育課題及び学校教育の課題解明を目的として研究校を指定しています。指定された課題や各学校が設定する研究主題の調査・研究を進め、その成果をもって本市教育の充実を目指しているところです。今年度は、18校を研究指定校に定め、今年度研究指定が終了する7校のうち5校が報告会を実施し、成果を報告しました。

各校の研究主題及び報告会の概要につきましては、「2 研究報告会について」をご覧ください。

今年度は、感染症対策を十分に講じた上で参集を基本とし、学校によってはオンラインも活用しながら実施することができました。

幕張西中学校では、工夫した単元構成で「確かな学力」の育

成の実現を目指した保健体育科の研究を実践しました。幕張西小学校では、自他を認める心の育成を図るため、3つの視点で道徳教育の研究を進めました。

また、花園小学校では、発問や教材・教具の工夫から深い学びを探究した算数科や理科の研究、大巖寺小学校では、よりよい学級づくりのために合意形成を基盤とした実践における特別活動の研究、金沢小学校では、ICTを活用し、児童の見方や考え方を豊かにする授業実践の研究と、どの報告会においても研究主題に迫る授業や発表が行われました。

協議会が実施された報告会におきましては、参加者が自らの疑問や自校の課題を伝えるなど、活発に協議する姿が見られました。今後は、これらの研究成果をさらに広く市内の学校で共有して参ります。

研究指定校の報告会にご出席いただいた教育委員の皆様方、ありがとうございました。

以上でございます。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

高津委員 私は、今、説明のあった5校について、研究報告会に教育委員として、また、私は昔、教員をやっていたので、一教員OBとしての思いでも、参加をさせていただきました。5校の先生方、また児童・生徒の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

この2年間、特に昨年度は秋に緊急事態宣言が出たり、あるいは1月、2月にまん延防止等重点措置の発令があって、各学校では研究実践をする上でいろいろな制限がある中で、大変ご苦労があったと思います。昨年、2校の研究報告会へ行ったのですが、1校はオンラインの報告会でした。今年度は、今、話がありましたように、参集しての報告会ということで、対面での報告会ができたことはよかったなと思っております。

研究成果につきましては、樋口課長の報告にありましてし、報告会の当日、担当の指導主事から講評で細かく成果を述べられたと思います。それぞれの学校で非常に工夫された授業、あるいはすばらしい研究のまとめができたと思っております。樋口課長からも話がありましたように、参加された他校からの先生がその成果を持ち帰って、自校の授業とか、あるいは研究に生かしていただければと思います。

参加した感想ですが、これも報告がありましたように、ギガタブの有効的な活用の授業、これが多く見られました。金沢小学校は全学級が、それから、中学校は1校だけの公開でしたけれども、幕張西中学校の保健体育の授業では、ハードルや柔道で動画を撮って、その確認をするという活用をしていました。驚いたのですが、金沢小の1年生の算数の授業を見させていただいて、1年生なのにこんなに上手にギガタブが操作できるのかと、これは学校の先生方の指導の賜物だと思います。

2つ目は、これも報告がありました、授業後の分科会、これも短時間ずつですけれども見させていただきました。初任者研修の一環もあるのでしょうか、若い先生方が中心となって、本当に議論伯仲といたしますか、グループごとに話し合ってそれをまとめるということをしていましたが、大体40分から45分の協議会の時間内ではとても足りない、そのくらい白熱した協議が行われていました。私も幕張西中学校のハードル走の研究協議会に少し参加をさせていただきました。

最後に、大巖寺小学校ですけれども、この中身にあるように、國學院大學の杉田先生による特別活動の記念講演を拝聴しました。押し迫っていたので、少し飛ばし飛ばしということで、ゆっくり聞けなかったのですが、杉田先生が熱く語られるその言葉に刺激を受けました。特別活動についてのお話ですが、恐らく参加された先生方にとっては、教員のあり方について話を伺ったのではないかと個人的には思います。大変勉強になりました。

改めて5校の先生方については、2年間の研究、本当に感謝を申し上げます。

以上です。

小西委員 私も大巖寺小学校に伺わせていただきました。研究報告会もちろん素晴らしかったのですが、今、高津委員がおっしゃったとおりで、國學院大學の杉田先生の話が大変素晴らしかったです。教員ではないのですけれども、子どもとの向き合い方とか子どもの人権に関する考え方とか、教員ではない一般人の私でもすごく感動する内容でした。こういったなかなか聞けない先生の講演を、単に資料を配れば伝わるとかそういう話ではなくて、やはり直接聞かないとこういった講演は伝わらないかなと思ったところです。もっと多くの先生に聞いてもらう

ために、例えば録画とか、先生たちが空いた時間にいつでもアクセスして見られるような形にできないものかなと思いました。有名な先生、こういった先生の講演だけでもそういった形が取れそうかどうか、検討いただければと思います。

樋口教育指導課長 まず、委員の皆様にご参加いただきましたこと、感謝申し上げます。また、この報告会につきまして大変高い評価をいただきましたこと、併せて感謝を申し上げます。

この講演会につきましては、現在のところ、当日の様子をそのまま共有するというシステムは、まだ構築はできておりません。ただ、やはり本市の教育の課題の解明が目的である研究指定校の取組み、これを全市に広げていくということが非常に重要であることから、今、ご指摘いただいた部分を含めて、どのような観点から市内に広げていくことが可能であるか、現在も報告会の資料を年度末にまとめて学校が見られるようにC A B I N E Tに格納するというような取組みはしているのですが、それ以外にも、様々な視点から共有できる工夫を検討して参りたいと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

小西委員 よろしくお願ひします。

藤川委員 ご報告ありがとうございました。

このように学校で研究をし、また発表していくということは、教員の力量形成においても非常に重要なことだというふうに考えられます。免許更新講習制度が廃止になり、今後研修制度が変わっていくということが決まっております。そうした中で、教育センターなどの研修会に出るとか、オンラインの研修を受講するのは、もちろんいいことですが、このように学校での研究活動に参加するという点についても、しっかりと位置づけていただけるといいだろうと思います。

また、各学校の発表会に先生方が参加することも、とても大事なことです。こういった各学校の発表というものが先生方の研修履歴にしっかりと位置づけられて、尊重されるようになっていくといいなと思いますので、ぜひ今後ご検討いただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

大山委員 3校拝見させていただいて、どの学校も素晴らしいなと思ったのは、学校の先生方もそうですけれども、その指導に当たっている方たちも、2年間ずっとご一緒に進めてきたことだと思

います。その方たちのご苦勞もあったと思いますので、その辺りも含めてお礼を申し上げたいと思います。

それと、金沢小学校の時にメディアが入っていました。一般の会社を巻き込んだものだったのですが、次の日に、ネットニュースなどで出ていましたので、千葉市の教育の宣伝にもなったと思います。やはりこうやって一般の会社を巻き込んで、いい方向に向かっていくということは大変素晴らしいことで、先生方と違う視点ですごく物を見ていらっしゃるなという感じでした。ぜひそういう取組みも今後やっていかれたらいいのかなと思いました。

今後とも、よろしく願いいたします。

報告第7号 令和4年度補正予算について（12月補正（追加分））

磯野教育長 次に、教育委員会が教育長をして臨時に代理させ、処理した事項に係る報告をお願いいたします。

報告第7号「令和4年度補正予算について（12月補正（追加分））」、教育支援課長、説明をお願いします。

小田教育支援課長 報告第7号についてご説明申し上げます。

議案書の5ページをお願いいたします。

令和4年度補正予算につきまして、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき、臨時代理により処理をしましたので、同条第2項の規定に基づき報告するものです。

続きまして、6ページをご覧ください。

令和4年度補正予算（特別支援学校スクールバス安全装置設置）について、「1 補正理由」ですが、国において創設された送迎用バスの安全装置改修への支援等を内容とする「こどもの安心・安全対策支援パッケージ」を推進し、こどもの安心・安全を確保するための所要の経費を計上するものです。

なお、当該予算は、国が令和5年度当初予算に計上せず、令和4年度補正予算に前倒しして計上したことから、今年度の補正予算として計上し、全額繰越明許の設定を行います。

「2 事業概要」ですが、送迎用バスの改修支援として、こどもの送迎用バスの安全装置の装備を支援します。養護学校7台、第二養護学校5台が対象となります。

「3 補正予算額」は236万円です。内訳としましては、マイクロバス10台と大型バス2台、財源として国費216万

円、一般財源20万円となります。

なお、補正予算額は、千葉県が示したマイクロバス1台18万円、大型バス1台28万円としております。

「4 参考」には、補助額、補助対象、補助施設、補助要件を一覧で記載しています。

以上でございます。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。

具体的には、どういった安全装置が取り付けられるのですか。

小田教育支援課長 昨日12月20日に、国土交通省からガイドラインが公表されまして、そのガイドラインに従って、押しボタン式の安全装置の整備を考えております。

もう少し具体的にご説明しますと、この装置は、エンジンを切りますと、バスの一番後方にある機械から「確認をお願いします」という音声メッセージが流れまして、運転手ないしは介助員等が一番後ろまで確認をしながら行って、ボタンを押さないと、そのメッセージがずっと流れ続けるものとなります。このように一番分かりやすい装置となっています。

以上でございます。

小西委員 ありがとうございます。

機械がつくことで安心ですけれども、もちろん最初はすごく気をつけると思います。ただ、時間が経ってしまうとボタンを押すことの方にばかり意識がいき、段々と子どもの確認がおろそかになっていってしまうということにもなりかねないですので、やはり最後は人による確認が一番大事だと思います。機械と同時に、学校全体で情報共有して子ども達の安全を守る体制の仕組みづくりをよろしくお願いいたします。

大山委員 ご説明ありがとうございます。

私も小西委員と同じで、実際どういうものなのかと聞いていました。幼稚園などでは子どもたちが練習をするとかあったのですけれども、養護学校などの場合は、何か訓練とかはやっていらっしゃるのか、教えてください。

小田教育支援課長 報道等でもよく出ているクラクションを鳴らす訓練等は、幼稚園や保育園でもやっているかと思うのですが、12月の段階で、スクールバスを使用しているすべての学校に対してクラクション訓練を行うようにというような指示は出しているの

すが、実は、障害種や障害の状況によっては、それが逆に誤学習になって、普通に車に乗っているときにクラクションを鳴らしてしまうとか、そういうこともあり得るので、対象者を十分考慮しながらの訓練の継続を行っているところです。

以上でございます。

8 その他

令和5年第1回定例会は、令和5年1月18日（水）に開催することと決定した。

9 閉会

磯野教育長より閉会を宣言